

職場体験レポート

作成者

西条市立西条東中学校

3年 氏名：三谷 芽生

職場の紹介

愛媛新聞社 西条支局

創業：明治9年9月11日（本社）

住所：西条市大町

特色：愛媛県の地方紙

従業員：約300人（総数）

現存する地方紙の中で7番目に古い新聞。
1日の発行部数は、約22万3千部。

事業所の写真



こんな職場です！



職場で体験したこと



新聞は、取材→執筆→編集会議→見出し・レイアウト→校閲→印刷という段階を経て、みなさんの家庭に配られています。今回、私は愛媛新聞社で記者の仕事に挑戦しました。

1日目は、午前中に取材計画の作成。午後からは、取材で使うカメラに慣れるために、鉄道博物館で写真研修を行いました。腕章を付けて周りの人に撮影していることを知らせないといけないことを学びました。

2日目は、同級生が職場体験をしているパン屋さんに行きました。午後からは、新聞に載せる写真の選択や、記事の構成をしました。ひと目で状況が分かる写真、そして5W1Hの要素で構成した記事づくりを行いました。

3日目は、市役所でベトナム人の国際交流員の方を取材しました。西条市とベトナムのフエ市は友好都市であり、「日本との懸け橋に」というリード文を事前に考えて取材を行いました。笑顔の写真を撮ることに苦戦しましたが、事前の準備を頑張ったこともあり、4日目の最終日に新聞を完成させることができました。



体験学習を通して

うれしかったこと、うまくできたこと

最終日に仕上がった、自分が作った新聞「東中TIMES」を見て感動しました。まだまだ課題はありますが、3日間で苦勞したことがつまっている自分の新聞に満足することができました。記者の皆様へ感謝です。

大変だったこと、失敗したこと

写真を撮るときは、記事の内容に合った場面を撮ること、1枚で伝える工夫をすること、どんな場所か分かるような写真を撮ることが大切だと教わりました。実際に撮影してみると、使えない写真が多くとても苦勞しました。



感想

働く人の姿から学んだこと

限られた時間での取材活動と記事の作成は、毎日の仕事となると大変な作業です。記者の皆さんの文章を書き起こす能力は、自分も身に付けたい力となりました。記事を作るには、事前の準備とその場の状況判断が大切であることを学びました。

全体を通して学んだこと

いつも当たり前のように家にある新聞は、実はたくさんの方の手によって作られていることが分かりました。今回の職場体験を通して、今後、新聞を読むときには、記者の方たちの苦勞や情熱も読み取れるようになりたいと思いました。

